

保育案と生活計畫

——ある講話の一部——

保育案とは何ぞや。或人は案の必要はないという。流れゆく一日ということが強調されると保育案なしのようにもなる。これは自然といえは自然だが、あまりに自然になつてしまふ。案は必要である。保育案とは幼児の方の生活と先生の計畫とむすびついた幼稚園内の生活計畫に他ならない。それも一人を保育するのなら、そんなに計畫をたてなくてもよく、その子についてさえ行けば機會保育が出来るのである。しかし分團として集つて流れて行くのだから、無理のない程度に於て、大體のきまりを考えておく必要がある。それも子供の自然に無關係な他の理由できめると無理になるけれども、皆大體そろつて流れて行くのだから、必ずしも無理とはならない。こゝに計畫の可能性があるのである。更に、生活の教育には、きまりの必要があるのである。この二つから保育計畫の存在の理由がある。兎に角計畫をたてゝ迎えるというのはこちらの義務である。

そこで次には、その保育案の問答だが、例えば食事である。

倉 橋 惣 三

午前から午後へ保育がつゞくとすると皆が何時頃お腹がすぐだるうという事がきまつている。即ち終日保育において先ず晝飯の時刻が揃つてきめられる。そうしてその前と後に長い計畫がある。その内容の一つとして排泄がある。朝來たら必ずおしつこをするのをきまりとする。それから大體どの位でしたくなるか。これも大體きまつてくることであり、これも生活計畫の中におかるべき大切な内容である。次に子ども等がどの位で疲勞するか。大體が同じ位の勞働量をもつ子どもらとして、これもおのずからきまつてくる。又眠くなる時を中心としても計畫がたつ。以上のように、食事・排泄・休息・睡眠・間食については自然に計畫がたつのである。幼稚園生活の時間案としてはまずこれらの計畫を立てるのがもとである。これはあたり前の話と思うが、今までの保育案では必ずしもそうでない。その保育案は保育項目の順序計畫とのみ考えられて、生活そのものための案とは考えられていなかった。第一、そんな生活は教育でも何でもないと考

あつたりしたのである。甚しきはそれは教育の間にちよこちよことするものであり、屢々教育を障げるものであるとさえされた。しかしこの生活計畫が先ずしつかりたくなければならない。保育とは教育であるが、ケアーがもとになつて行われるという實際からいつて素よりいうまでもない事である。従來でも保育所の保育案にはそういう事がちやんと出ているが、幼稚園ではそうでないことがあつた。若しこういうことに重きをおくと、『まるで保育所のようなだね』といつたりした。勿論これらの生活は是非そうしなければならぬと子どもらに強いるわけではない。その通りしなければ不都合だといふわけでもないが、こちらが計畫なしにはいつて行くのは不都合である。遊戯中におしつこをする子があるとすれば、子どもは兎に角く、それは先生の方にその計畫がなかつたことが批判されるべきであらう。

さて、幼児の生活は一つの生活計畫がたてられているとそれに順應して行くものである。生活は順應する。私は「生活は」と特にいう。若しこゝによりき幼稚園があつてその生活計畫が流れ行く自然にもとづいて計畫されて行けば、それに子供が順應し、こつちの計畫が子供の自然か區別のつかぬものになつてしまふと思ふ。私のみた外國の幼稚園で驚く程うまくこうした生活計畫がいつているのがあつた。これが先ず生活計畫としての保育案への問題である。

次に「流れゆく一日」とは子供の生活の自然であるが、先生の方に、今日はこんな生活をさせてやろうという考がある

ことも當然である。客を招んだ時、こんな事をして何時間おもてなししようといふ／＼趣向や順序を考へると同じように、われ／＼も大勢の子を迎えてその用意なしにする事はない。しかしこの所で一つ是非いいたいのは私が今趣向といつた點である。保育の術語とは無關係な平常語である。即ち趣向は子供達をして、どんな楽しい生活をさせようかということに主點をおいていつているのである。どういふ教育をしてやろうかといふのと必ずしも一つではない。教育者は相手をどう教育しようかとのみ考へて、相手をもてなす事を屢々忘れがちである。しかし、家で無計畫な母の下にいるよりも幼稚園へ來れば楽しいのはその趣向の計畫のためである。子供はその爲に幼稚園へ來たがるのである。ところが先生は保育案を教育的にたて、子どもの生活とは無關係に藥屋か病院へ行つたようにしてしまつたりするのである。勿論教育効果は常に忘れてならないが、特に生活を主にして趣向という言葉を私は使つたのである。平らかにいえば、どうして遊ばしてやろうかといふ事である。たゞ自由に遊べというだけでは、趣向がないから、その趣向を一應用意しておくのである。

さて前に云つた生活の區切りと此の趣向とは、決して衝突するものではない。むしろ趣向の中にいろ／＼の實生活が織り入れられているとさえ思ふ。お辨當は必ずしも、お辨當のためのお辨當生活としてのみでなく、ピクニックの中にとり入れられてもいゝ。お客さまごつこの中のごちそうとしてとり入れられてもよからう。このように生活の計畫さえも趣向

の中にとり入れられる。これを要するに、どうしたら今日一日を楽しく過させてやれるだろうことに豫め意を用いるのである。どうして教育してやろうかということは正面からいわないで、生活としての趣向を立てるのである。教育案を立てすぎると、これがある爲に趣向をこわすことがある。幼稚園では、毎日来るお客さんなので、ついそまつに扱い、趣向という程の計畫をたてゝいなかたりする。毎日々々来るのだから趣向にも一應の規準類型が出来てくるだろうが、教育目的を以て計畫する前に、いかに生活を充實させるかの趣向を計畫しておくべきである。その趣向に應じてそれ／＼のしつらえをしておくのも素よりである。私は幼稚園の先生に大切なことは、子供の歸つた後で、明日の子供をむかえる趣向のしつらえをすることだと思ふ。趣向の心のこもつた保育計畫である。

そこで次には、そのよき趣向とは何ぞやという事に問題が移つて来る。それは子供の生活がどういう時に充實され、どういふ點に充實をこちらから手傳つて行けばいゝのであろうかということが中心になる。これは決して一つのみちではない。例えば幼稚園の中にいろいろの設備を作るといふのもその一つである。さぞやすべりたかろうといつてすべり臺がある。さぞや砂いじりがしたかろうといつて家にない砂場がある。これを物による趣向という。家でいへば軸物が如何にかけるか、花がいかにいけてあるかである。これによつて容は愉快になる。幼稚園でも部屋の中は、この意味で趣向さ

れなければならぬ。暫くまりを與えなかつたから、水いたすらをさせなかつたからという具合で趣向が立てられる。

ところが物にさそい出させるというのとならんで、生活に或る目的（少し強すぎる言葉であるが）を與える。という仕方もある。物は單純なる興味の對象を與えておくというのである。興味は物と自分との間に起る。それだけの事であるが、目的とはこちらの發動性が出て来るのである。プランコにのりたくなるというのは物についている。目的とはこちらが主となつて、生活計畫へ一歩はいつて行くのである。そこで先生はそれ／＼の目的計畫をたてる。その目的にもとずいて自らに生活計畫を生み出させるのである。

保育では自發という事が重要な一般原則としていわれる。この自發とは心理的なものである。幼児とは自發的なものなりという事は正しい。外から他動せられる事なくして自發する力をもつという心理的言葉である。その自發に機會を與えるのが物である。幼児のむく／＼した自發、はつらつとした自發性に、或る方向を興えるべく「物」が働くのである。第二の「目的」といつたのは、一寸聞くと自發という言葉と一致しないように感じられる所もあるが、目的にもいろいろある。若し大人の場合の様に、複雑な高度のもので、目的と生活々動との間に距離があり、目的の爲に生活々動するとなると、「目的」と自發活動とは相反することになる。例えば或る所へ行こうという目的があつて、その爲に歩くとするれば歩くのは手段である。ところが幼児はそうではない。その場合

に目的とは何であるか。門の所で子供と先生とが會う。先生が『今日は先生はお庭を掃きます。手傳つて下さらない』とくうと、子供は『僕は塵取りを持つて来よう』という目的を持つ。この場合、幼児はその活動を目的の爲の手段として考へていない。つまり目的が子供の生活の流れの範圍内で起つた時は、自發とちつとも矛盾したものではない。そこで、目的を與える計畫としての保育案が立てられるであらう。

以上幼稚園の生活計畫は子供の生活を充實させることであり、充實させるために趣向が設けられ、趣向を生かすには物によるのと目的によるのと二つあることを考へた。

ところが、こゝにまだ残つてゐる問題がある。ある幼稚園としては、生活を充實させたい丈でなく、やはり教育したい。

ところで、「物」によつて誘うにせよ、「目的」によつて誘導するにせよ、その中で教育目標を達するみちがある筈である。つまり「物」も「目的」も、教育目標を實現するに都合のよいものを選んで行ける譯である。心ある母は榮養という事を忘れない。我が子が如何なる物を好むかを知つてはいるが、その中で榮養を考える事も無理なく出来る。これと同じ意味で趣向の中に教育効果を織り込む事ができる。幸にして天地萬有悉く教育になるのである。故にこの併合に於ては苦勞はない。たゞしこれを教育にする思いの深さが先生にあるだらうか、或は思いの深さのみで趣向の力に缺けていないかである。

しかし、これだけではどうもさよつとすみきらぬ所があ

り、又二つの問題が出てくる。一つは揃つて流れて行くに於いて、實際には子供の傾向にいろ／＼ある。まんべんなくやつて行く子供。かたよれる子供がある。プランコボーイ・お砂場ガール・室内といへば晝かき娘、人形ごっこ娘。いろいろある。これはその子の本來なのか、家でいけないのか。先生の始めが悪かつたのか。理由はともかく結果として偏よつてゐる時、そのまゝ流れに任してはおけない。教育の見地からその子に特殊な仕方をしなければならぬ。それも幼稚園が充分にとゞえられたる設備で、幼児数が適當で又その先生が最も優れた人で時には、その特殊な仕方も一人々々について出来易いが、設備も不充分、幼児が多數、先生が経験が少ないという場合では、どうしても特殊の仕方もいるであらう。

フレイベル館前社長發田榮藏氏の逝去を悼む

フレイベル館前社長發田榮藏氏は交通事故のため急逝せられ、十月二十四日東京都千代田區神田公園において、哀愁のうちにも盛大な社葬告別式が行われた。本誌として特に哀悼にたえない。

尙新社長には、前事務取締役小河幸三郎氏が就任、益々社業の發展を圖られることになつた。